

課題歌「月」

「一 席」

一、機械音止みて暮れゆく工事場にクレーンを照らし月昇り来る

加藤 一誠

「二 席」

一七、「お月様きれい」とぼつり窓辺の娘帰省の理由は訊かずにおこう

江尻 恵子

「三 席」

一八、月よりの光とときぬ玻璃窓の蟬螂一つ影絵になりて

打保 洋子

二五、病む夫の寝息を確む今日ひと日何事もなし月を見上げる

宇田 恵美子

「選者推薦」

一七、「お月様きれい」とぼつり窓辺の娘帰省の理由は訊かずにおこう

江尻 恵子

抑制の利いた詠み方だからこそ余剰が感じられドラッグが展開される。

二一、甲板に月影さして春望をうたう人あり復員の船

青木 茂

すぎりしてぞ深い歌である。

自由歌

「一 席」

六、山里の細き流れの花筏はないかだいづくかに消え春終りたり

瓜田 民子

「二 席」

三〇、読点の多き作家の息づかひに沿いて読みをり「瑠璃玉の耳輪」

武藤 久美

「三 席」

一二、盆踊り母はいつしか輪の中へ木の葉のように手足をゆらす

滝上 一恵

「選者推薦」

二六、妻、娘、姑、ばあは返上し束の間エステにわが身委ねる

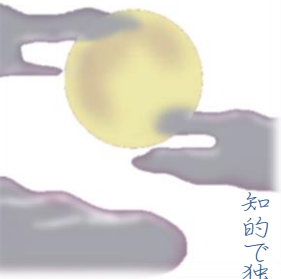
小林 伸子

しがらみを捨ててのひとときの解放感。語感もよく素直に詠まれている。

三〇、読点の多き作家の息づかひに沿いて読みをり「瑠璃玉の耳輪」

武藤 久美

知的で独自の具象性がある。旧かなづかい歌なので「浴び」は「浴びて」としなければならぬが、直して推薦したいと思う。



道伝えの日 お月見歌会 課題「月」

「飛驒神岡高等学校」

○優秀賞

夜店では離れないようにと言いつつ月夜の径まで握る君の手

一年 おおつぽ 大坪 茉依

君の手を握るための言いつけが月夜の径が効果的。

月が満ちる「妙希はばあちゃん似だね」って言われ輝く十五夜の空

二年 よねざわ 米澤 妙希

初句で言いつけり妙希はばあちゃん似だね」と言われたことの嬉しさが輝く十五夜の空という表現で伝わってくる。

○入賞

空見上げ君と同じ月を見る電話越しの声が重なる

一年 しもくら 下倉 梨香

戦争の記憶を包む満月は平和への道照らしつづける

二年 かわかみ 川上 このか

酸化したバナナに恋する十五歳満月に向って思いを叫け

一年 おおまえ 大前 沙月

満月の光があまりに眩しくて弱い私を見透かしている

三年 なかた 中田 璃子

虫の鳴く声に風の音さえも丸めてゆくかのような満月

三年 おのうえ 尾上 緋奈子

「高山西高等学校」

○優秀賞

生い茂る梅雨に濡れたる紫陽花が雨降る夜に隠したうさぎ

二年 かみがいと 上垣内 昂

高校生の短歌によく出てくる「うさぎ」。本当は雨で見えない月を紫陽花が隠したうさぎ」と表現は巧妙でおもしろい

英一を勉強して目をこする終わる頃月光る真上で

一年 ささき 佐々木 裕章

英一を勉強して目をこする」学生でなければ作れない短歌。真上で光る月を見ている佐々木さんの情景が浮かんでくる。

月の色太陽により変わってく月と太陽は比例関係

二年 うつえ 打江 駿一郎

月と太陽が二回詠まれているが気にならない。比例関係という表現が効果的。

○入賞

帰り道悔し涙が溢れだすそんな私を照らす月光

三年 つづく 都竹 楓

ステージで私に光は当たらないでも月明りはいつも私を

三年 おの 小野 杏菜

月光に写し出される人の影ああいとおしき親のぬくもり

三年 なかい 中井 太一

晴れた夜金に輝く空の月おとなしくもあり晴れやかでもある

二年 いたや 板矢 康佑

さまざまな形で夜をすごす月今日はどんな形ですごすか

一年 おおした 大下 里子

月の下細い小道の花たちが風にゆられてお月見してる

一年 わたなべ 渡邊 萌衣

雨音を聞く夜月がきれいだよ君のメールの空を見てみる

二年 かねこ 金子 実礼

行きたくて追いかけるけど逃げられる恥ずかしいのか欠けてゆく月

三年 むらた 村田 真以

望遠鏡を背伸びして月のぞきこむクレーターが見える海が見える

二年 まつ 松井 千寿

